

探究する心を育てる「科学新聞」の発行

甲佐町立甲佐中学校 永瀬 善久

1 はじめに

私は、理科の教員として昭和63年の4月に採用していただき、これまで理科の学習理解を促進し、児童生徒の「探究する心」を育てることを目標に取り組んできました。その取り組みの中で、平成16年度から理科の授業を補い、日常生活と理科の関連を図り、探究する心を育てる「科学新聞」の発行を行ってきました。本研究は、近年7年間の取り組みをまとめたものです。

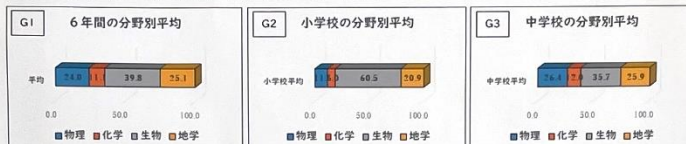
2 研究の目的

「科学新聞」の定期的な発行(毎週1回)により、生徒の理科への興味関心を高め、自然の事物・現象を質的・量的な関係や時間的・空間的な関係などの科学的な視点で捉え、比較したり、関係付けたりするなどの科学的に探究する方法を用いて(日常的に)考える力を育成することを目的に研究を行いました。

3 研究の実践

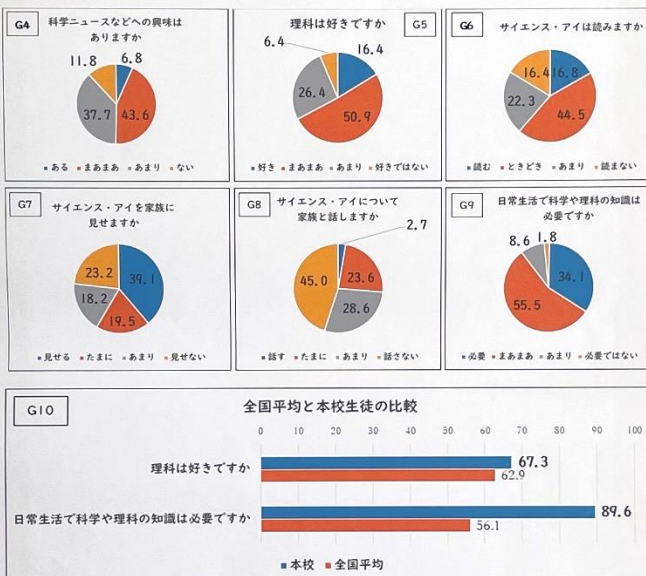
平成27年度から、過去3年間の取り組みの課題や反省点を整理し、次の5点に重点を置いて「科学新聞」の発行を行いました。

①読みやすい文字の大きさ、文字数 ②学校周辺の自然環境や日常生活に配慮した内容 ③理科の学習内容・児童生徒の実態 ④物理・化学・生物・地学の各分野のバランス ⑤家族で会話がすすむ内容



4 研究の結果

「科学新聞」の発行による成果を把握するため、本校生徒を対象に理科アンケートを実施しました。以下、その結果です。



5 研究の成果と課題

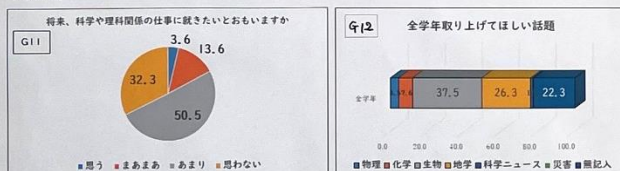
(1) 成果

研究の実践の重点5点に取り組み、G1~G3のように分野のバランスに配慮して取り組みを行いました。アンケート調査の結果(G4~G9)から、生徒の50.4%が科学ニュースなどへの関心があり、61.3%が科学新聞(以下サイエンス・アイ)を読んでいることがわかりました。また、58.6%が家族にサイエンス・アイを見せ、26.3%がサイエンス・アイの内容について家族と話していました。

平成30年の全国学力学習状況調査の生徒質問紙の結果と本校生徒のアンケート結果を比較したところ(G10参照)、「理科は好きですか」の項目では、わずかに本校の生徒の(好き+まあまあ好き)の割合が高くなっています。また、「日常生活(社会に出たとき)で科学や理科の知識は必要ですか」の項目では、全国平均より本校の生徒の(必要+まあまあ必要)の割合が33.5%高くなっています。

これらのことから、科学新聞(サイエンス・アイ、かかく・だいすき)を毎週1回発行することにより、科学や理科に関する興味・関心が高まり、理科が好きだと考える生徒が増え、家族で科学や理科に関する話題を話さきっかけになっているようです。また、日常生活における科学や理科の有用感も高まっていることがわかりました。

(2) 課題



アンケート調査の結果(G11)から、将来、科学や理科関係の仕事に就きたいと考えている生徒の割合が17.2%と低いことから、日常生活における科学や理科の必要性は理解しているものの、科学や理科が将来の職業観としては、まだ結びついていないことがわかりました。また、今後取り上げてほしい話題(G12)から、生徒は生物や地学への興味・関心が高く、近年の自然災害の増加から、防災を意識した内容を取り上げて欲しいとの要望もありました。このような生徒の意見・要望を今後の内容に生かしたいと思います。

6 おわりに

この7年間で、小学校と中学校で科学新聞を計263号(9月27日現在)発行することができました。子どもたちの科学・理科への興味・関心が高まり、科学的な視点(サイエンス・アイ)で日常生活(自然の事物・現象)を捉えることができれば願い、毎週1回の発行を累計10年間取り組むことができました。発行を行う中で、子どもたちからの質問や要望、保護者・地域の皆様からの期待の声をいただき、大きな励みとなりました。この研究の成果と課題の分析を行い、さらに充実した内容に改善したいと思います。